

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ・一般社団法人全国高等学校PTA連合会合同調査
第9回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2019

教育改革の評価 「高校教育」への期待は高まる一方、 「大学入学者選抜」への不安が残る

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都品川区 代表取締役社長：柏村 美生）と一般社団法人全国高等学校PTA連合会（所在地：東京都千代田区 会長：牧田 和樹）は、高校2年生とその保護者に対し、進路に関する考え方やコミュニケーションの実態を探る調査を実施いたしました。ここに集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。本調査によるリリースは「教育改革」編、「将来へのAI影響」編の計2つあり、本リリースは「教育改革」編です。

【教育改革への期待と不安】

- **高校生・保護者ともに、『高校の教育』に関しては、5項目全て「期待」が「不安」を上回っている。…P.3**
『大学入学者選抜』に関しては、7項目中6項目で「不安」が「期待」より大きい。…P.4
- ・『高校の教育』に関しての「期待」のトップは、
高校生：「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べる」70.2%
保護者：「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」61.7%
- ・『大学入学者選抜』に関しての「不安」のトップは、高校生・保護者ともに、「現在の『大学入試センター試験』が、記述式問題も出題される『大学入学共通テスト』に変わることに」がトップ。
- **高校生の38%、保護者の24%は、通っている高校は教育改革へ対応していると感じている。…P.5**

【進路選択について】

- **進路選択のアドバイスが「難しい」と感じる保護者は73%。…P.6**
・難しい理由のトップは「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」（54.7%）。調査開始以来初めて半数を超えた。前回から+9.2ポイントと大きく上昇。
- **進学にあたり保護者が重要だと考える情報は「現在の入試制度の仕組み」が8割。前回より10ポイント上昇し、「進学費用」を抑えて1位となった。…P.7**
- **子どもの進路選択において、保護者の関わり（行ったことがある+行いたい・計）は「興味をもった学校の入試方法を調べる」がトップで85%。…P.7**

【将来必要な力と現在持っている力のギャップ】

- **「社会で働くにあたって必要とされる能力」で不足しているのは、「主体性」「実行力」「発信力」。…P.8**
・「社会で働くにあたって必要とされる能力」を身につける有効な場は、高校生・保護者ともに「部・クラブ活動の時間」がトップ。前々回調査（2015年）より連続増加し、増加幅がトップの項目は「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」であった。…P.9

【子どもとの日常コミュニケーション】

- **教育改革を踏まえて、子どもとのコミュニケーションで「特に今後心掛けていきたい」ことは、「『自分で選択し、それに責任をもつ』ことが大切だと言っている」がトップ。…P.10**

※出版・印刷物へデータを転載する際には、「高校生と保護者の進路に関する意識調査2019」

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ・一般社団法人全国高等学校PTA連合会合同調査”と明記ください。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【リクルート進学総研 WEBサイト】 <http://souken.shingakunet.com/>

【調査概要】

- ・ 調査目的：高校生を持つ保護者とその子どもにおけるコミュニケーションの実態と進路観の現状を把握する
- ・ 調査主管：株式会社リクルートマーケティングパートナーズ、一般社団法人全国高等学校PTA連合会
- ・ 調査対象：高校2年生とその保護者
一般社団法人全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県、各3校ずつ計27校の公立高校
※各校：2年生2クラスの生徒とその保護者

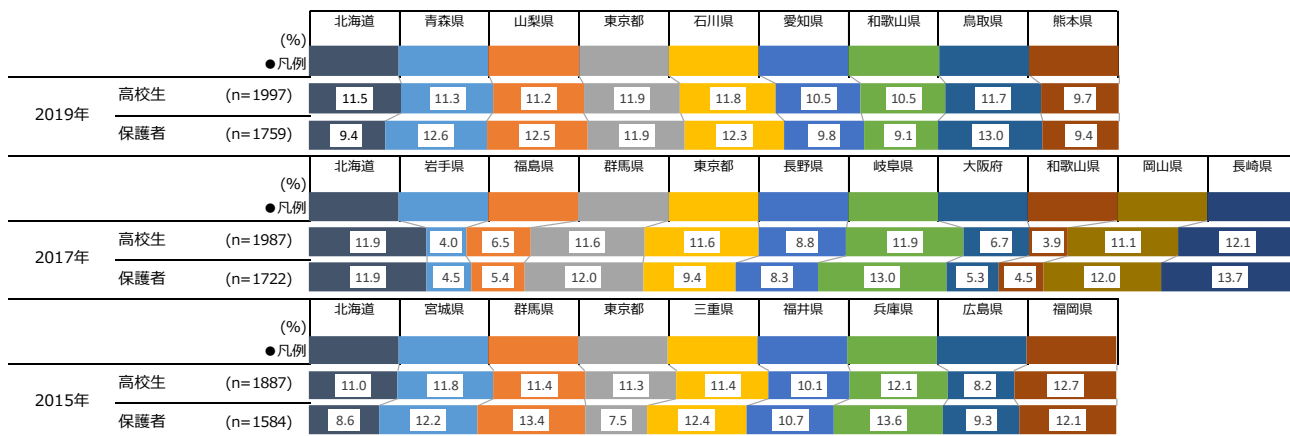
2019年	北海道 青森 山梨 東京 石川 愛知 和歌山 鳥取 熊本
2017年	北海道 岩手 福島 群馬 東京 長野 岐阜 大阪 和歌山 岡山 長崎
2015年	北海道 宮城 群馬 東京 三重 福井 兵庫 広島 福岡

※調査実施校所在地は毎年変わるため、時系列データは参考

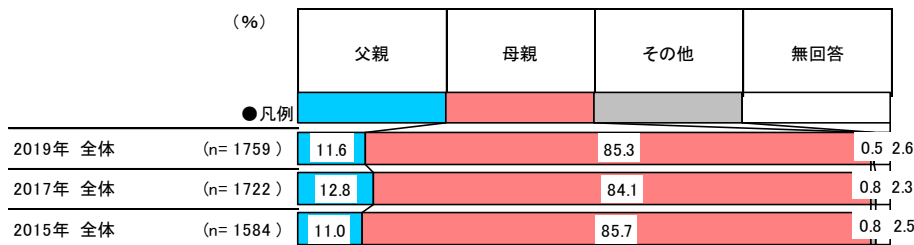
- ・ 調査期間：2019年9月1日（日）～2019年10月25日（金）回収終了
- ・ 調査方法：（1）高校生 ホームルーム時にアンケート実施
：（2）保護者 高校生から保護者へアンケートを手渡しで依頼、実施
クラスごと学級担任が高校生・保護者アンケートをまとめ、学校ごとに回収
- ・ 有効回収数：（1）高校生 1997名 ※全問無回答1名を除く
（2）保護者 1759名 ※全問無回答6名を除く
※調査対象校のうち1校において、下記設問に不備がある調査票が配布されたため、集計対象から除外した。
高校生：教育改革への期待と不安（P.3,5掲載）
保護者：教育改革への期待と不安（P.3,5掲載）、子どもとの日常コミュニケーション（P.10掲載）

【回答者プロフィール】

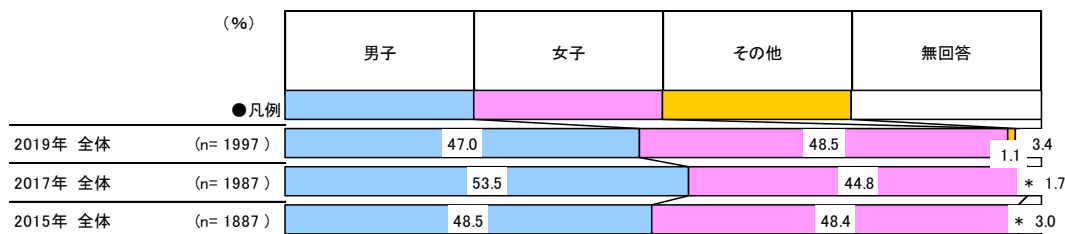
【高校生・保護者】時系列 調査対象校所在都道府県（全体）



【保護者】時系列 続柄（全体／単一回答）



【高校生】時系列 性別（全体／単一回答）



【高校生・保護者：教育改革への期待と不安 『高校の教育』】

■ 高校生と保護者の『高校の教育』に関しての「期待」のトップはそれぞれ、
 高校生「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進捗で学べる」70%
 保護者「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が
 重視される」62%

■ 高校生・保護者ともに、5項目全て「期待」が「不安」を上回っており、教育改革における
 『高校の教育』への期待は大きい。

【高校生・保護者】『高校の教育』に関する教育改革への期待と不安（全体（※1）／各単一回答）

		期待・計		不安・計		わからない	無回答	期待・計	不安・計	期待-不安
		期待できる	不安はあるが期待が大きい	期待はあるが不安が大きい	不安である					
高校生 (n=1938)	保護者 (n=1722)									
ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進捗で学べるようになる	高校生	41.7	28.5	12.6	4.9	10.8	1.4	70.2	17.5	52.7
	保護者	19.1	35.7	20.4	5.4	12.4	7.0	54.8	25.8	29.0
先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる	高校生	33.5	29.4	18.0	7.3	10.5	1.3	62.8	25.3	37.5
	保護者	19.1	36.8	24.8	6.2	6.8	6.3	55.9	31.0	24.9
生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される	高校生	34.5	27.7	19.6	7.3	9.3	1.7	62.2	26.8	35.4
	保護者	24.9	36.8	18.7	5.2	7.7	6.8	61.7	23.9	37.8
生徒自身が基礎学力の定着を把握し、今後の学習活動につなげる「高校生のための学びの基礎診断」が始まる	高校生	33.5	27.7	15.7	6.2	14.9	2.0	61.2	21.9	39.3
	保護者	21.4	33.7	18.1	5.1	13.9	7.7	55.2	23.2	32.0
学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる「ポートフォリオ」が導入される	高校生	32.1	25.2	16.7	8.4	15.9	1.6	57.4	25.1	32.3
	保護者	21.4	35.4	17.9	4.6	13.7	6.9	56.8	22.6	34.2

※高校生「期待・計」の降順ソート

※1 調査対象校のうち1校において、当該項目に不備がある調査票が配布されたため、集計対象から除外した。

【高校生】

『高校の教育』に関して期待すること（フリーコメント）：

「自信をもって自分の気持ちを表すことが出来るようになりそう。」
 「『ポートフォリオ』によって経験を生かし、次の目標を設定する。」
 「A I にはできない臨機応変さを持った人が生まれる。」

『高校の教育』に関して不安なこと（フリーコメント）：

「自分には主体性がないので、ついていけないか不安だ。」
 「高校の授業が果たして本当に主体性を育てるものになってしまうのか。」
 「経済的に余裕のある人が活躍するシステムになっているので、今以上に経済・地域格差が進むこと。」

【保護者】

『高校の教育』に関して期待すること（フリーコメント）：

「暗記型ではなく自ら考えて行動できる人を育成する取り組みだと思う。」
 「子どもの持っている本来の力、能力が最大限に引き出せるようなシステムや関わり。」
 「子どもの将来を考えると“主体性”を重視する点では期待できる。」

『高校の教育』に関して不安なこと（フリーコメント）：

「とても優秀な一部の子たちだけでなく、皆が身に付けることができるのか不安です。」
 「全ての学校を改革ではなく、自分に合う学校に進めるよう多様なスタイルにして生徒が選択できるようになるとよい。」
 「ポートフォリオが導入されるとその為のボランティア活動になり、自主性が失われぬのか。」
 「格差の拡大（学力、家庭の経済力・地域による）。」

■ 『大学入学者選抜』 に関しての「不安」は、高校生・保護者ともに、「現在の『大学入試センター試験』が、記述式問題も出題される『大学入学共通テスト』に変わる」ことがトップ。

■ 高校生・保護者ともに、7項目中6項目で「不安」が「期待」より大きく、教育改革における『大学入学者選抜』に対する「不安」は大きい。

・ 「期待」が「不安」より高い項目は、高校生・保護者それぞれ下記1項目であった。
 高校生：「アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜が実施される」+14.3ポイント
 保護者：「総合型選抜、学校推薦型選抜でも、学力評価が必須となる」+4.7ポイント

【高校生・保護者】『大学入学者選抜』に関する教育改革への期待と不安
 (高校生：進学希望者、保護者：子どもを進学させたい希望者(※1) /各単一回答)

	高校生(n=1625) 保護者(n=1114)	期待・計		不安・計		わからない	無回答	期待・計	不安・計	期待-不安
		期待できる	不安はあるが期待が大きい	期待はあるが不安が大きい	不安である					
大学が、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)等を策定・公表し、それに基づいた入学者選抜が実施される	高校生	26.0	22.4	19.4	14.6	15.6	2.0	48.4	34.1	14.3
	保護者	11.8	27.6	25.0	14.8	15.1	5.7	39.4	39.9	-0.5
総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜(推薦入試)でも、学力評価が必須となる	高校生	20.6	22.5	21.2	23.1	10.9	1.7	43.1	44.3	-1.2
	保護者	13.2	31.4	23.3	16.5	9.8	5.7	44.6	39.9	4.7
調査書が変わり、「学力の3要素」すべての評価が記載される	高校生	19.6	22.3	20.5	23.4	11.8	2.3	41.9	43.9	-2.0
	保護者	9.3	26.8	25.1	21.7	11.0	6.1	36.1	46.9	-10.8
英語について、従来の「読む」「聞く」「書く」「話す」を加えた4技能が評価される	高校生	20.4	16.9	20.2	35.8	5.0	1.7	37.3	56.1	-18.8
	保護者	10.0	23.2	27.5	30.4	4.0	4.9	33.1	57.9	-24.8
各大学の個別入試では、筆記試験に加えて小論文や面接、ポートフォリオなどで主体性が評価される	高校生	16.7	19.6	23.4	30.3	8.1	1.8	36.3	53.8	-17.5
	保護者	7.1	22.9	27.7	28.9	7.9	5.5	30.0	56.6	-26.6
民間が実施している英語資格試験が活用されるようになる	高校生	18.2	17.4	21.5	34.2	7.1	1.7	35.6	55.6	-20.0
	保護者	9.1	19.0	23.7	36.0	6.6	5.7	28.1	59.7	-31.6
現在の「大学入試センター試験」が、記述式問題も出題される「大学入学共通テスト」に変わる	高校生	12.7	14.0	20.6	44.7	6.2	1.8	26.7	65.3	-38.6
	保護者	4.2	17.4	28.9	36.9	7.5	5.0	21.6	65.8	-44.2

※高校生「期待・計」の降順ソート

※1 調査対象校のうち1校において、当設問に不備がある調査票が配布されたため、集計対象から除外した。

【高校生】

『大学入学者選抜』 に関して期待すること (フリーコメント) :

「学業以外も評価されるところ。」
 「多様な面から長期的にその人を判断し入学すること。」
 「アドミッションポリシーが公表されると、大学が求める人材が分かり、大学についてイメージしやすくなるので良い。」

『大学入学者選抜』 に関して不安なこと (フリーコメント) :

「自分の代で入学者選抜が変わるのが不安である。」
 「入学者選抜について不明瞭なことが多いこと。」
 「民間の英語資格試験の活用。使用するかどうかが現段階で全て決まっていないというのはいかがなものか。」

【保護者】

『大学入学者選抜』 に関して期待すること (フリーコメント) :

「学力評価(AO入試・推薦入試)が必須。学ぶ意味・理由につながる。」
 「詰め込んだ知識量の評価でなく、思考力、主体性などが評価される事。」
 「一人ひとりが多角的に学び、評価されるのは良いと思う。」

『大学入学者選抜』 に関して不安なこと (フリーコメント) :

「大学入学共通テストと英語資格試験についてまだはっきりとわからないことが多すぎる。準備期間も短すぎる。」
 「主体性が公平に評価されるのか。記述式問題の公平な採点。」
 「わが子がこの流れについていけるか不安。」

【高校生・保護者：通っている高校での教育改革への対応】

■ 高校生の38%、保護者の24%は、通っている高校は教育改革へ対応していると感じている。

■ 具体的に変化を感じている取り組みは、
 高校生は「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる『ポートフォリオ』が導入される」、
 『ポートフォリオ』が導入される」、
 保護者は「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」がトップ。

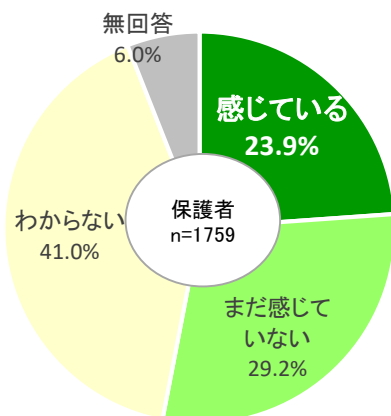
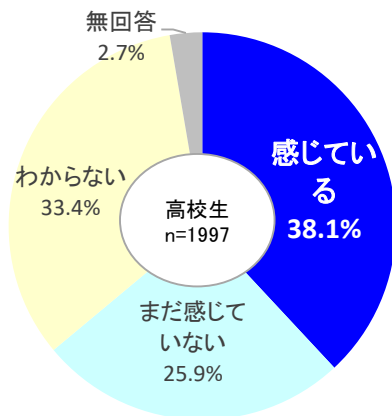
高校生

- 1位「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる『ポートフォリオ』が導入される」(57.8%)
- 2位「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」(50.8%)
- 3位「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」(47.5%)

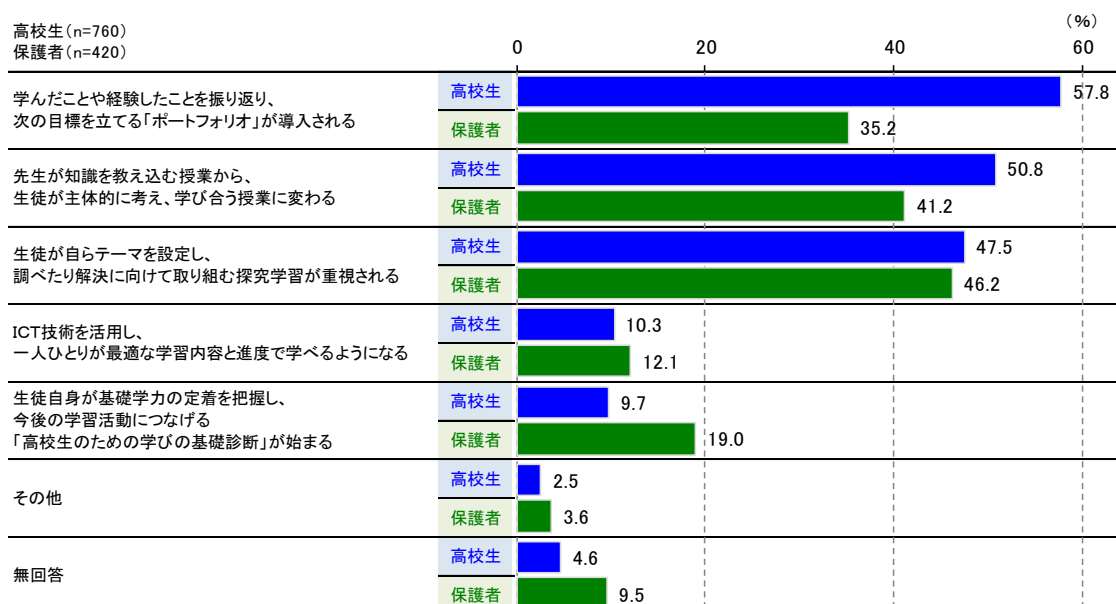
保護者

- 1位「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」(46.2%)
- 2位「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」(41.2%)
- 3位「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる『ポートフォリオ』が導入される」(35.2%)

【高校生・保護者】高校での教育改革への対応を感じるか（全体／単一回答）



【高校生・保護者】具体的に変化を感じる取り組み内容（高校での教育改革への対応を「感じている」回答者／複数回答）



※高校生のスコアの降順ソート

【保護者：進路選択についてのアドバイス】

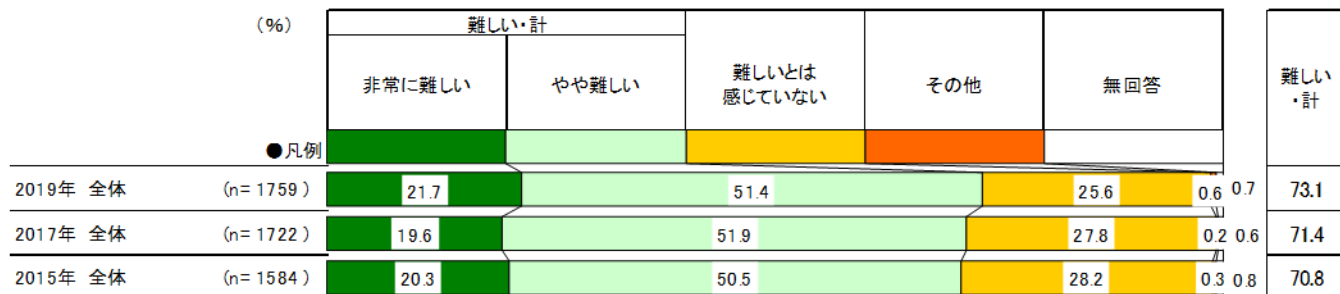
■進路選択のアドバイスが「難しい」と感じる保護者は73%で微増。

■難しいと感じる要因は「入試制度を知らないから」が引き続きトップ。

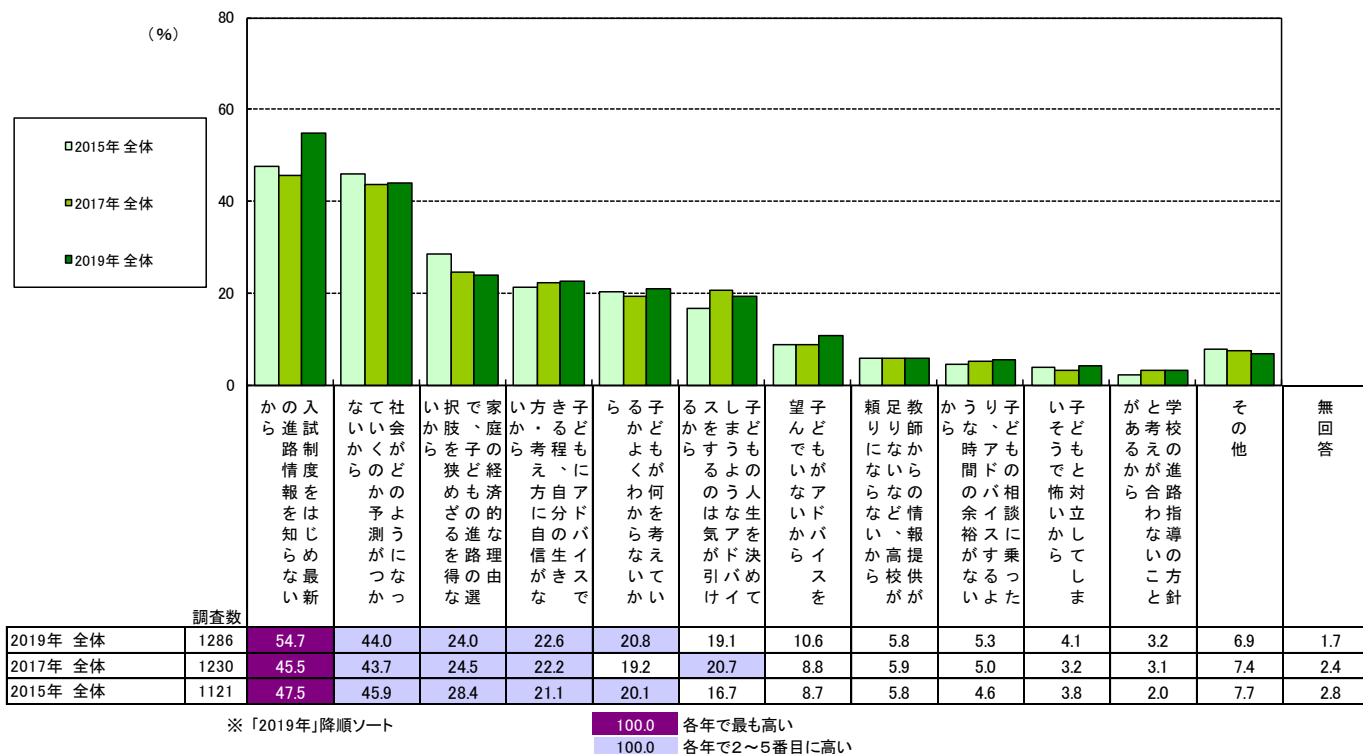
- 1位「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」（54.7%）
- 2位「社会がどのようになっていくのか予測がつかないから」（44.0%）
- 3位「家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから」（24.0%）

・1位「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らない」は前回から+9.2ポイントと大きく上昇し、調査開始（2009年）以来初めて半数を超えた。

【保護者】時系列 進路選択について子どもにアドバイスすることは難しいか（全体／単一回答）



【保護者】時系列 進路選択についてアドバイスを難しいと感じる要因（アドバイスが「難しい」回答者／複数回答）



【保護者】進路選択について心配なことや気がかりなこと（フリーコメント）：

- 「新しく導入される共通テストについて各大学の方針が不明確だったり、情報量が少ないこと。」
- 「社会の変化が激しく、5年先の社会がどのようになっていくのか予測不能なため、大学を出ても仕事があるのか不安。」
- 「親の要望にそって大学を決めていないか、本当に自分の意志で決定しているのか。」
- 「最終的に子どもに進路決定させる方針だが、経済的な事情で進路を変更しなければならないことが子どもに申し訳ない。」

【保護者：進学にあたって重要な情報と進路選択行動への関わり方】

■保護者が最も重要だと考える情報は「現在の入試制度の仕組み」が80%。前回より10ポイント上昇し、「進学費用」を抑えて再び1位となった。

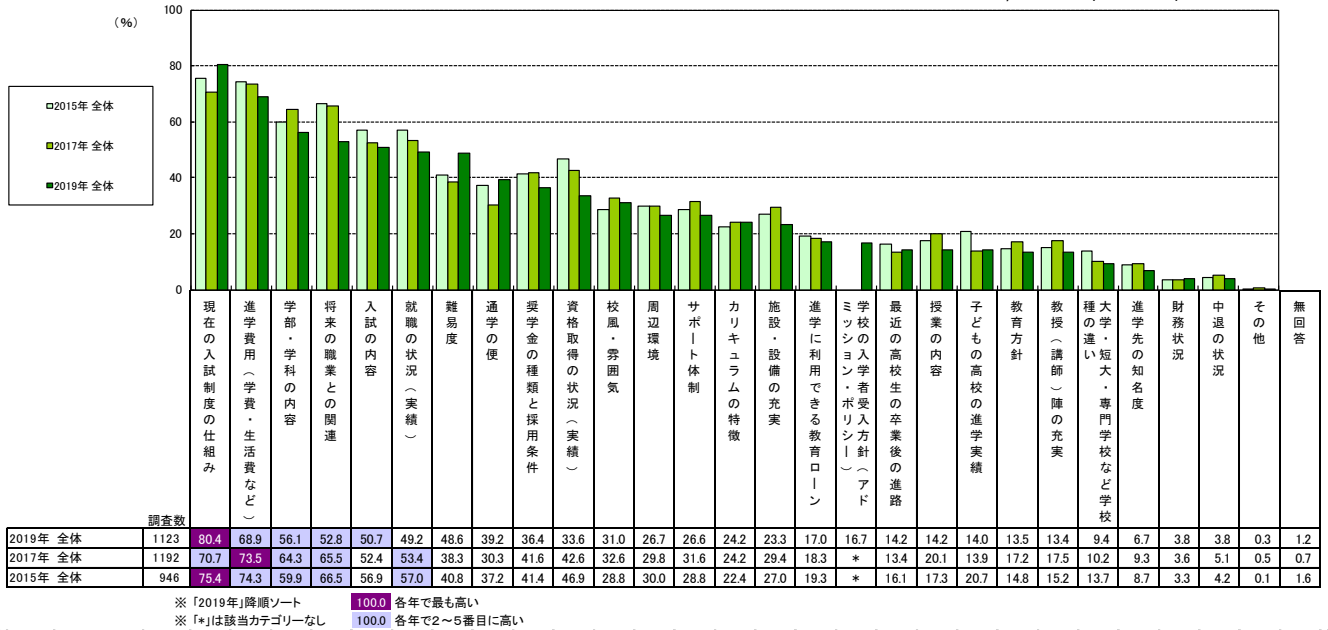
- 1位「現在の入試制度の仕組み」 (80.4%)
- 2位「進学費用」 (68.9%)
- 3位「学部・学科の内容」 (56.1%)
- 4位「将来の職業との関連」 (52.8%)
- 5位「入試の内容」 (50.7%)

・1位「現在の入試制度の仕組み」は前回から+9.7ポイントと大きく増加し、8割を超えた。アドバイスが難しい要因としてトップだった『入試制度』が、重要な情報としてもトップであった。

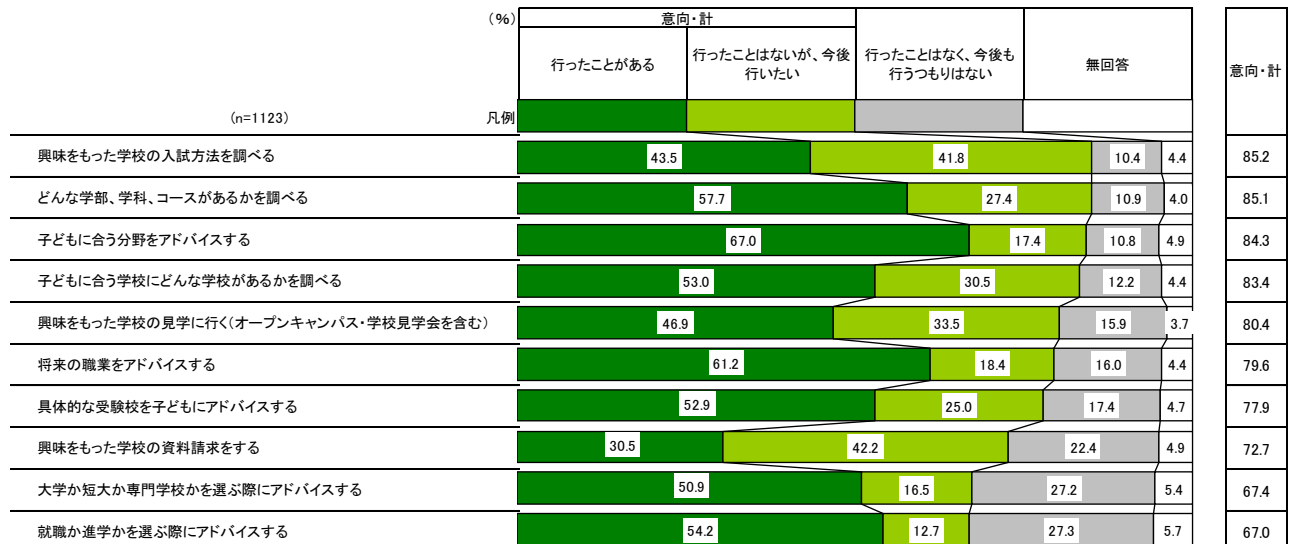
■子どもの進路選択において、保護者の関わり(行ったことがある+行いたい・計)は「興味をもった学校の入試方法を調べる」がトップで85%。

【保護者】時系列 進学にあたって重要な情報(進学希望者(※1)複数回答)

※1 進学希望者；大学進学/短大進学/専門学校進学希望者計



【保護者】2019年 進路選択行動への関わり方(進学希望者(※1) /各単一回答)

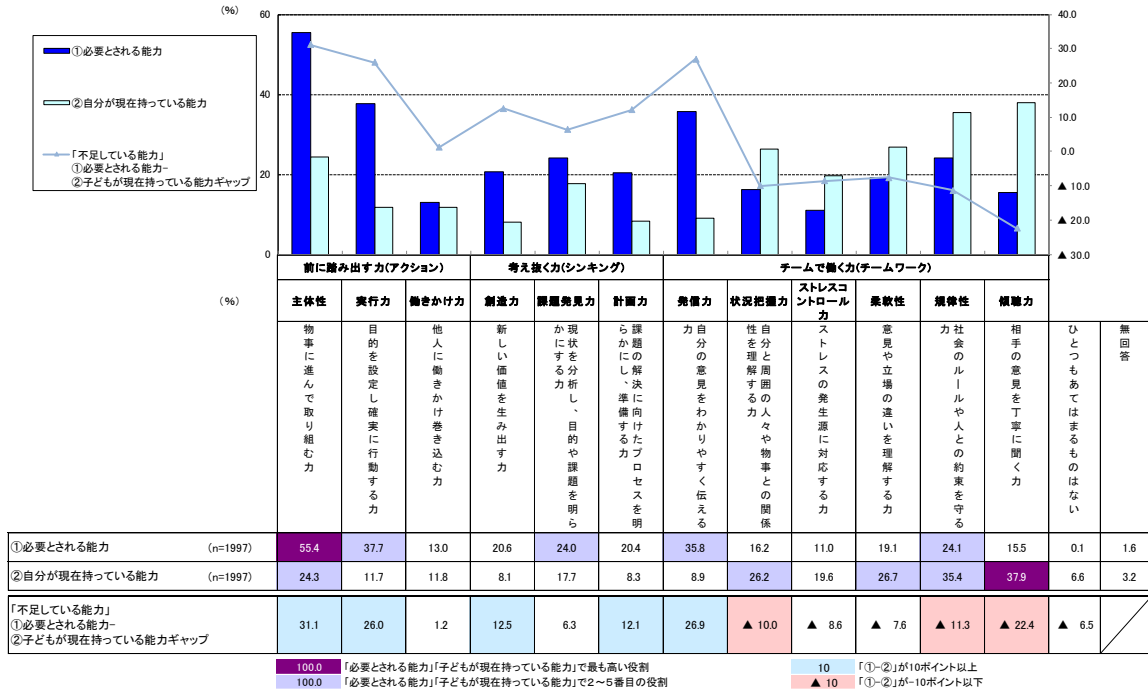


【高校生・保護者】 将来必要な力と現在持っている力のギャップ

■ 「社会で働くにあたって必要とされる能力」において、
 高校生：自分に不足している能力は、「主体性」「発信力」「実行力」
 保護者：子どもに不足している能力は、「主体性」「発信力」「実行力」
 必要とされる能力について、高校生と保護者は同じ認識を持っている。

■ 一方、現在持っている能力は、
 高校生：「傾聴力」「規律性」「柔軟性」
 保護者：「規律性」「主体性」「状況把握力」

【高校生】 「社会で働くにあたって必要とされる能力」と「自分が現在持っている能力」のギャップ（全体/各3項目まで複数回答）



【保護者】 「社会で働くにあたって必要とされる能力」と「子どもが現在持っている能力」のギャップ（全体/各3項目まで複数回答）



※選択肢は経済産業省が提唱する、3つの能力（12の能力要素）から構成される『社会人基礎力』

【高校生・保護者】 将来必要な力を身につけるのに有効な場

■ 「社会で働くにあたって必要とされる能力」を身につける有効な場は、高校生・保護者ともに「部・クラブ活動の時間」がトップ。

■ 保護者・高校生ともに、前々回調査（2015年）より連続増加し、増加幅がトップの項目は「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」であった。

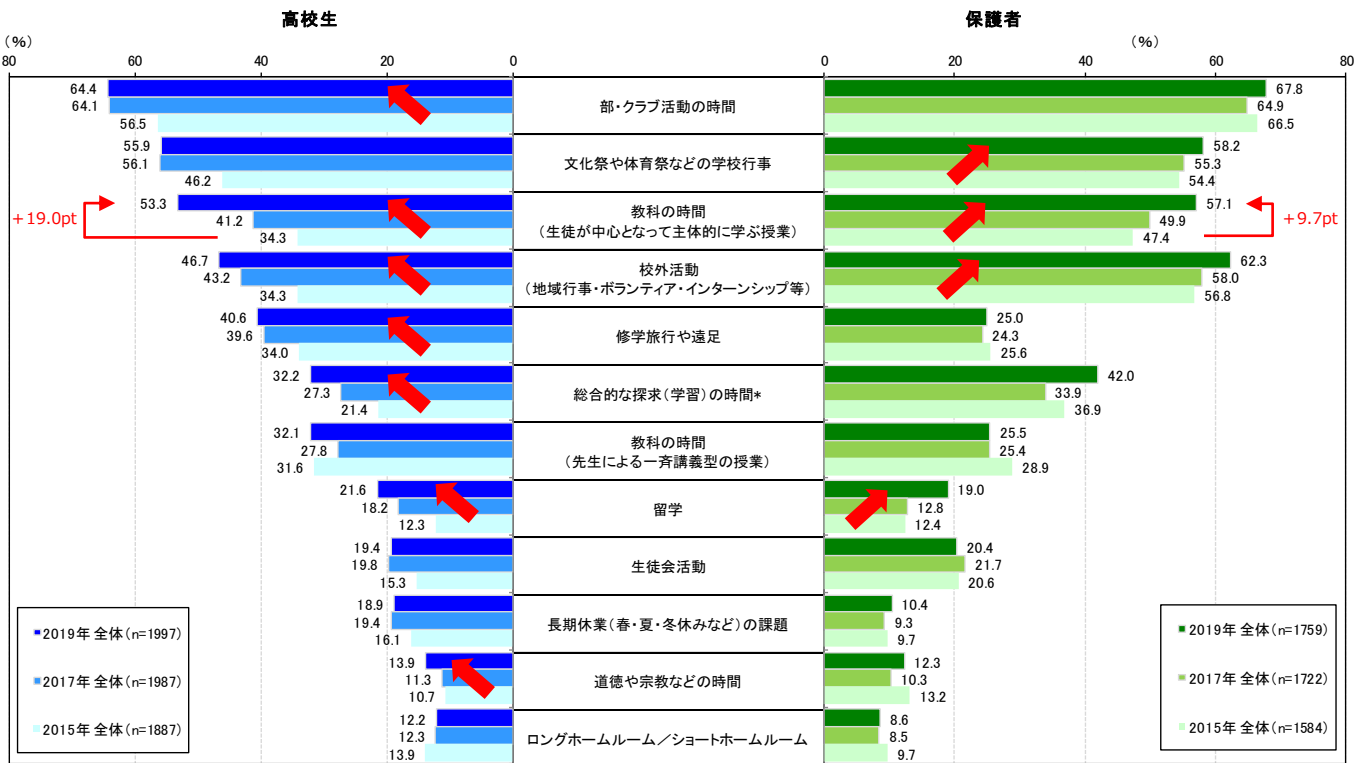
高校生：2015年:34.3% → 2017年:41.2% → 2019年:53.3% (2015→2019 +19.0pt)

保護者：2015年:47.4% → 2017年:49.9% → 2019年:57.1% (2015→2019 +9.7pt)

・ 前々回調査より3回連続増加しているのは、
その他を除く12項目中、高校生は7項目、保護者は4項目。

【高校生・保護者】 社会で働くにあたって必要な能力を身につけるのに有効な場（全体/複数回答）

↑ 前々回調査（2015年）より連続増加している項目



※高校生「2019年 全体」の降順ソート

* 2015年、2017年は「総合的な学習の時間」

* 高校生

「その他」 2015年:2.0、2017年:2.5、2019年:1.2

「無回答」 2015年:5.8、2017年:2.3、2019年:2.9

* 保護者

「その他」 2015年:1.1、2017年:1.2、2019年:1.3

「無回答」 2015年:7.7、2017年:7.5、2019年:5.1

【保護者：子どもとの日常コミュニケーション】

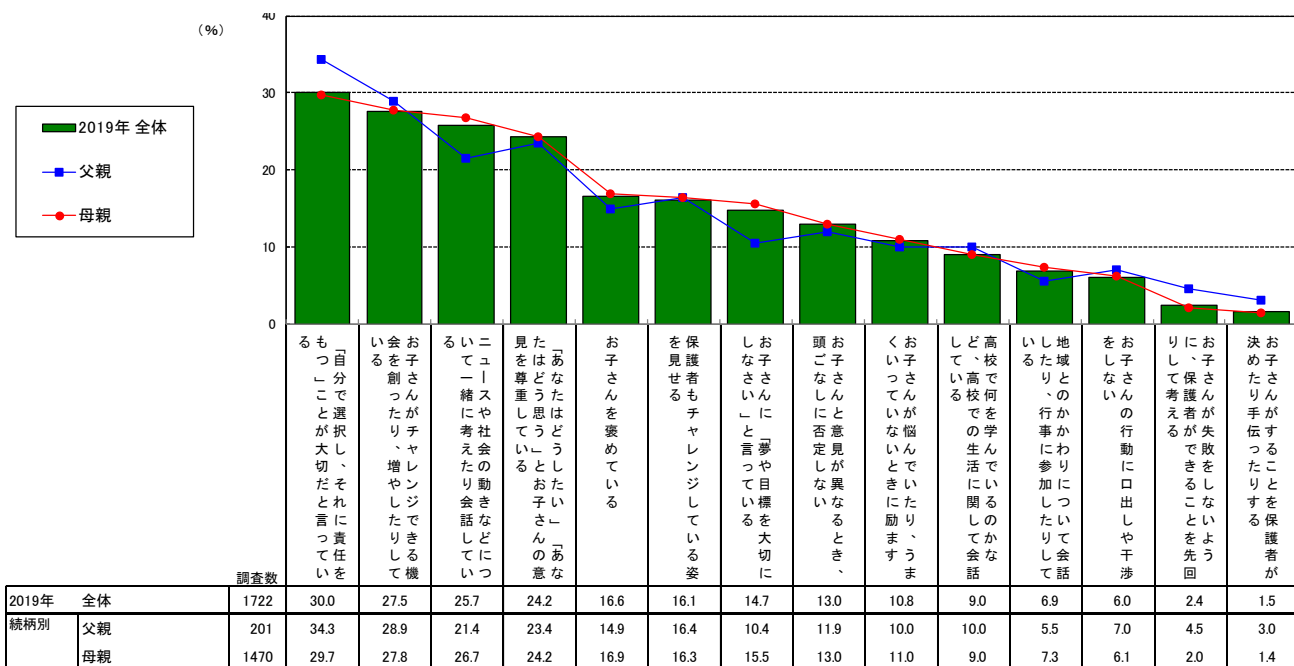
■教育改革を踏まえて、子どもとのコミュニケーションで「特に今後心掛けていきたい」ことは、「『自分で選択し、それに責任をもつ』ことが大切だと言っている」がトップ。

1位「『自分で選択し、それに責任をもつ』ことが大切だと言っている」（30.0%）

2位「お子さんがチャレンジできる機会を創ったり、増やしたりしている」（27.5%）

3位「ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している」（25.7%）

【保護者】教育改革を踏まえて、日常のコミュニケーションや行動で「特に今後心掛けていきたい」こと（3つまでの複数回答）（※1）



※「2019年全体」降順ソート

※1 調査対象校のうち1校において、当設問に不備がある調査票が配布されたため、集計対象から除外した。

【保護者】お子さんのやる気やモチベーションを上げるために心掛けていること（フリーコメント）：

■父親

「『勉強しなさい』、『成績上げなさい』は言わないようにしてるかわりに、『何かやりたいことを見つける』ことを意識するよう話をしています。」

「何事においても結果を認め（承認）、プロセスを褒めるようにしている。」

「話しかけてきたら、最後まで話を聞く。」

「保護者もがんばっている姿を見せるように心がけている。」

「勉強する場所を自由にしている。図書館、塾、カフェなど。」

◆母親

「がんばりを大いに認める。将来の夢を楽しそうに語っている時は、じっくりと聞き手にまわる。」

「できるだけ肯定する。遊びの要素を含む教育プログラムを紹介したりすすめたりしている。」

「努力を認めねぎらう。他者との比較ではなく、自己の成長を昨年と比較することの大切さを話す。」

「保護者と子どもで一つのことに、チャレンジすること。」

「親の考えをおしつけない。」